

NGO福岡ネットワーク機関誌 FUNN 特定非営利活動法人 NGO福岡ネットワーク

国際協力ニュース 2021/5 Vol.139

第20期国際協力NGOカレッジ

SDGsと私たちの生活

全6回

2021.1.20(水)→3.13(土)

受講料 一般 1,500円
(各回) 学生 1,000円

オンライン講座

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

FUNN 西南学院大学

主催: 特定非営利活動法人 NGO福岡ネットワーク、特定非営利活動法人 泉京・垂井、西南学院大学
後援: 特定非営利活動法人 関西NGO協議会



▼ 目次【VOL.139】

- 2-3 第20期NGOカレッジ振り返り
- 4-6 FUNN加盟団体インタビュー
- 7 新職員・インターン紹介
- 8 NGO相談レポート他

わたしたちの暮らしとSDGs

日常生活のあらゆる場面で耳にする機会が増えたSDGs。今回のNGOカレッジでは、身の回りの生活環境からSDGsを考え、参加者自らアクションプランを作成・実践していくキッカケとなりました。暮らしに活かせるSDGsとは何かを学びました。

NGOカレッジとは

NGOカレッジとは、国際協力やNGOなどが取り組む活動について理解を深めていくことを目的とした連続講座です。第20期を迎えた今回は、新型コロナウイルスの影響もあり、オンライン会議ツール「Zoom」を使った開催となりました。

今回、例年のNGOカレッジと違った点は、①オンラインで開催したこと、②岐阜県のNPO法人泉京・垂井、福岡の西南学院大学との協働で開催したことです。

今回は、NPO法人泉京・垂井さんに寄稿文を依頼し、NGOカレッジを振り返ります。

第20期NGOカレッジ開催

第1回目「SDGsから見直す私たちの食と農」

食料自給率38%と対外依存度の高い私たちの食生活。世界で流通する食の約1割を輸入し、フードマイレージも世界最大級です。その裏返しとして、足元の農は衰退の一途。SDGsのすべてのゴールを食・農と紐付けて、私たちの食の見直しがSDGsとどのように関係していくのか考えました。【講義形式】

日時：2021年01月20日（水）19:30～21:00

講師：神田 浩史（かんだひろし）氏（NPO法人泉京・垂井副代表理事）

いび

第2回目「揖斐川流域で見るSDGs」

私たちは海外の木製品を安く買ったり、食材をスーパーやコンビニで手に入れたり、多様な選択ができるようになりました。一方で国内や海外の森林や水環境、生態系は悪化しており、私たちの命を脅かす程の影響が出ています。揖斐川流域という広域の繋がりから海外へ思考を広げた「流域志向」を学びました。【ワークショップ形式】

日時：2021年01月30日（水）14:00～16:30

講師：鉄井 萱人（てついかやと）氏（特定非営利活動法人名古屋NGOセンター国際理解・開発教育委員）

第3回目「SDGsで読み解く 足元の水環境と森林」

木材の自給率も38%。こちらは年々上昇してきています。しかし、私たちの生活の上流に位置する森林は荒廃・老化も著しく、過疎化・高齢化も相まって、維持することが困難な状況が続いています。こんな状況をSDGsで読み解けば、日ごろの生活の中からヒントが見つかるかもしれません。【講義形式】

日時：2021年02月10日（水）19:30～21:00

講師：神田 浩史 氏

第4回目「私たちの暮らしと熱帯雨林の関係」

スナック菓子やカップ麺などに使われるパーム油。原料であるアブラヤシの大規模農園は東南アジアの熱帯林に集中しています。この大規模開発は、森と共に暮らす先住民族の暮らしにも影響を及ぼしております。ボルネオで起きていることと私たちの暮らしの繋がりを考え、自分でできることを考えました。【ワークショップ形式】

日時：2021年02月20日（土）14:00～16:30

講師：荒川 共生（あらかわともお）氏（ボルネオ保全トラストジャパン理事）

第5回目「SDGsをより深く理解するために」

SDGsの目標年まであと10年。SDGsを表面だけのアプローチに終わらせないためにも、ここで改めてSDGsが必要とされてきた背景について学びました。SDGsでできることは多いけど、一人ひとりの行動がより大きな広がりを持つために。【講義形式】

日時：2021年03月03日（水）19:30～21:00

講師：神田 浩史 氏

第6回目「アクションを起こそう！」

最終回はこれまでの講座を振り返ってアクションプランを考えました。SDGsを通じて自分の日常的な行動の積み重ねにどういう意味があるのかわかってきました。参加者全員が自分のアクションプランを宣言しました。

日時：2021年03月13日（土）14:00～16:30

講師：神田 浩史 氏



【左】SDGsの17個の目標を包括的に学習しました。

第20期NGOカレッジ報告

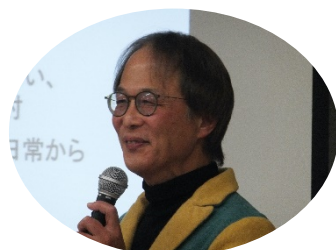
【総括】

共同主催しましたNPO法人泉京・垂井副代表理事の神田浩史さんは、第20期NGOカレッジ開催について以下のように総評して下さいました。

第20期国際協力NGOカレッジでは、SDGsを食・農・水・林といったテーマで深掘りする、さらには、座学だけではなく、ワークショップも加えて、平板な理解に留まらず、多様な角度から理解を深めていく、というのが今回の6回の目標でした。講座全体としては、そのような意図が共有されていたと思います。受講して下さった皆さまの吸収度も高かったように見受けられました。ワークショップの参加者がもう少し確保できればという反省材料はありますが、概ね初期の目的を達することはできたと思います。

最終回の第6回目「アクションを起こそう！」では、受講者自身が「SDGsアクション・プラン」として、17の目標ごとに今すぐできること、3年以内に行えること、10年程度で行えることを発表しました。1人でできること、友達とならできること、不特定多数の人と協力しないとできないこともあります。日常的な行動の積み重ねの先にSDGsがあるからこそ、参加者の皆さまには行動することを期待しています。

アクションプランの発表には多くの学生さんが積極的に参加され、各々が考える日常生活におけるSDGsへの取り組みを皆さまと共有しました。学生だから取り組める行動でも、主婦ではなかなか実行するのが難しいこともあり、社会生活における役割によって取り組める行動の認識に違いがあることも学ぶことができました。



【参加者の声】

井上 さん

SDGsってよく耳にするけど何だろう、という疑問から講座に参加しました。SDGsを意識しながら生活するようになると、今まで目に入らなかったものが見えてきたり、行動に自信を持てるという思考の変化がありました。

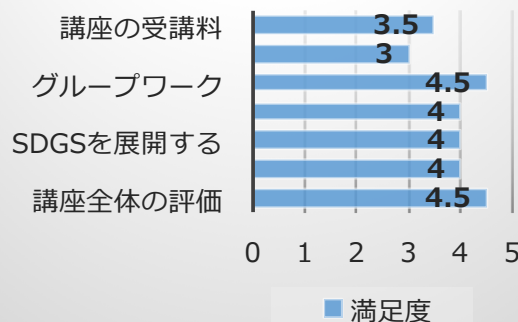
山口 さん

私はこの講座で、講義、グループワークでの様々な方との意見交換を通して、毎回新たな発見を得、自分事として考えることができました。また、日々の小さな選択の積み重ねがSDGsに全て繋がっていることを学びました。

大学生

講座への参加を通して、日常生活に密着したSDGsの実践方法を考えることができました。講座内では、少人数グループに分かれて話し合う時間もあり、NGOの方や他県にお住まいになる社会人の方々と考えを共有しました。全体発表の場では、参加者全体の感想や疑問点が共有され、1人では辿り着けなかった発想や考え方に触れることができました。年代や住む地域の異なる参加者同士が、オンライン上でつながり一緒に学ぶ貴重な機会となりました。

受講者アンケート





加盟団体インタビュー

今回は、FUNNのインターン生3名が加盟団体にインタビューを行いました！

■ 地球市民の会

Q. 団体設立の経緯を教えてください

A. 設立者古賀武夫さんは、「佐賀フランス研究会」を設立しました。そこでは、フランスの文化を紹介するイベントを開始しましたが、様々な国籍の人が集まっていたので、そこから地球市民運動を始めることになりました。



【上】ミャンマーの子供達。農民主体の農村づくりを目指します。

【右】「海を越えた思いやりの心」を、スリランカの学生達と育みます。



Q. これまでの活動を教えてください

A. 1986年、古賀さんはタイを訪れタイの貧困層に出会うことで豊かさとは何か考えました。そこからタイで奨学金や学校、女子寮建設、水道を通す活動を始めました。

次に、佐賀大学に来たスリランカの留学生がタイ事業を知り協働を提案したことから、1995年からスリランカにも電気支給や小水力発電、給水施設の設立、日本の古い救急車を送るなどの事業をしました。

2018年からは当時NPO、NGOからの支援が全くなく、ミャンマーの中で最も貧しいと言われているチン州の支援を始めており、今も続

けています。

タイでは奨学金事業が行われてきましたが、GDPの向上や物的な豊かさ、政府が奨学金を与え始めたことから別の支援に切り替えました。タイでは介護があまり浸透しておらず、また少子高齢化が深刻なことを踏まえ介護の人材育成を開始しました。日本語と介護の技術をつけてもらい、タイに戻った後技術移転してもらおう介護留学事業を計画しています。日本国内での活動としては、地元、足元を元気に！という考えのもと福岡県との県境にある三瀬村や富士町という過疎化が進んだ中山間地で、使われていない畑にオリーブを植えてそこから収益を得る事業を立案しました。今は佐賀市の委託を受け、子どもの居場所事業を進め、放課後両親が家にいない子どもが安心して過ごせる場所をつくっています。

Q. FUNNに加盟するメリットを教えてください

A. メリットは2つあり、一つ目は九州の他のNGO、NPO団体の情報を広く得られることです。二つ目はFUNNにはインターン生が来ることから、国際協力に興味のある若い人と繋がりを持てることです。

Q. 今後の活動予定を教えてください

A. タイ現地の事業がおわった代わりに、佐賀にあるタイ人の団体「サワディー佐賀」が災害情報の発信をしています。現在支援先のミャンマーやスリランカの団体づくりを休眠預金で進め、同様に災害情報の発信を計画しています。



加盟団体インタビュー

■ アジア女性センター

Q. 団体設立の経緯を教えてください

A. 1980年代後半から90年代にかけて、バブル期到来をきっかけに日本の労働力不足を補うため外国人労働者が増加し、劣悪な現場で働かされている外国人が少なくなかったです。その問題の解決を図るため、福岡に働きに来た外国人を支援する団体ことができました。そして、外国人女性の家庭環境に関する問題の相談窓口となるべく、その団体から独立する形で、1997年にアジア女性センターが設立されました。

Q. これまでの活動を教えてください

A. 2019年度は798件の相談で、2020年度は2019年度より少なくなる見込みです。2020年の活動は2019年と同様の、相談や同行支援などが主に行われました。相談はまず電話で行い、その後状況に応じて面談をするなどして、一緒に問題解決を目指していきます。また、同行支援では、弁護士と話し合いのサポートをしたり、役所に一緒に行ったりします。この活動では、自分の問題を自ら解決できるように支援をすることを目的としています。

受ける相談で一番多いのは、パートナーや恋人の問題で、子どもや家族、在留資格についての相談を受けることも多いです。在留資格の関係上、婚前の相談はあまりないのですが、パートナーとの関係性は結婚を機に変わるものではありません。そのため、DVの相談などを受ける場合は結婚後の相談でも交際

時の話から聞くことはよくあります。また、持っている在留資格によって受けることができる支援（例えば生活保護や国民健康保険）も異なるので、個人個人に合わせた対応方法を伝えています。

Q. FUNNに加盟するメリットを教えてください

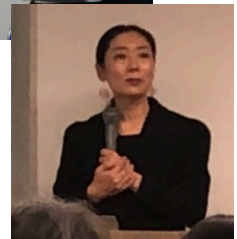
A. 日頃のアジア女性センターのネットワークにFUNNのネットワークがプラスされることで、活動の域が広がることです。

Q. 今後の活動予定を教えてください

A. これからも相談支援を続けていく予定です。昨年11月からは『多言語LINE相談』を始めました。これは、電話番号がない端末を持っている人も対応ができます。英語・中国語・韓国語・タイ語・ポルトガル語・スペイン語・ロシア語・タガログ語の8か国語で行われています。相談を必要とする人が集まる市役所や入管などに、QRコード付きのカードを置くなどして普及を図っています。



2020年1月に開いた講演会では、シリア難民キャンプで活動するNGO「国境なき子どもたち」からスタッフの松永晴子さんを講師にお迎えしました。



加盟団体インタビュー

■ FIWC九州（フレンズ国際ワークキャンプ九州）

Q.団体設立の経緯を教えてください

A. 1950年代からAFSC（アメリカフレンズ奉仕団）が日本の被災地でワークキャンプを行っていました。その後、日本独自のワークキャンプを行う組織としてFIWC（Friends International Work Camp）がAFSCから分離・独立しました。国内では、関東、関西から始まり、東海、九州と徐々に活動範囲を広げ、現在では関東、東海、九州に委員会が設立されています。現在名古屋大学准教授の日下さんが、2004年に九州委員会を設立されました。

Q.これまでの活動を教えてください

A. FIWC九州は日本、フィリピン、中国、ネパールの4カ国で活動しています。国内の活動として、福岡県福智町キャンプでは地域活性化活動を行っています。具体的には、地域イベント参加、地域学習塾でのオンライン教師や子供たちとの農園を作るプロジェクトなどです。大分県耶馬溪では、農業体験や、地域が抱える過疎化や耕作放棄地などの問題について考え、ハンセン病療養所訪問も行ってきました。国外の活動では、それぞれの国ごとに事業内容が異なります。チャイナキャンプでは、ハンセン病快復者の衣類の洗濯や部屋の掃除のお手伝いや、村全体の苔やゴミ等の掃除、簡易的な水路整備や道路舗装を行っています。他のキャンプとの決定的な違いは、ハンセン病快復者との交流を通じた心のケアです。ネパールキャンプでは、大震災の復興支援として水道設備や、村の公共施設の建築などを行いました。フィリ

ピンキャンプでは、住み込みで橋を現地の人たちと一緒に作りインフラ整備の活動を行ったことで、農村部の行政支援が行き届いていない地域の自立促進を進めました。



【上】チャイナキャンプでは、現地の学生たちとの交流会を開きました。

【右】ハンセン病快復者との交流を行い、心のケアを行います。



Q.FUNNに加盟するメリットを教えてください

A. FUNNがFIWC九州の相談に乗ってくれること、海外ワークキャンプのための助成金を受けられることができる、この2点です。また、FUNNとJICAで開催した組織強化セミナーのおかげで、自分たちの団体運営をどのように行っていけば良いかについて多く学ぶことができました。

Q.今後の活動予定を教えてください

A. 現在、新型コロナウイルスのため海外ワークキャンプはできません。しかし、このような状況でも国内に向けて農業キャンプや、地域復興に向けた活動、オンラインイベント、勉強会を行う予定です。

♥ 新入職員・インターン紹介 ♥



【インターン】
原野 公太 さん
西南学院大学

◎ FUNNでの思い出は(2021年2月～3月)

事務局長の原田さんによる「レヌカの学び」ワークショップは、異文化理解について注意すべき点を深く学ぶことができました。そして、他インターン生や機関先の方々、FUNN事務局の方々の素晴らしい出会い、FUNN主催の各イベントへの参加など、貴重な出会いと経験を得ることができました。



【インターン】
鈴木 真優 さん
福岡女子大学

◎ FUNNでの思い出は (2021年2月～3月)

FUNN主催のNGOカレッジに参加し、「将来に向けて私たちに何ができるか」を発表しました。今自分が普段していることは将来どのような影響を及ぼす可能性があるのか考え、自分なりにできることを意識し、行動に移すことが大事だと学びました。



【上】インターン最終報告会では、実現可能性部門賞を頂きました。



【新入職員】
小原 正道

◎ 入職のきっかけは

2021年11月からFUNN事務局でお世話になっています。中間支援組織としてFUNN加盟団体のサポートができることに魅力を感じました。日々、国際協力について関心を持ち続ける環境に身を置くことができ満足しています。また、たくさんのイベントを通じて新たな出会いが増えたことは、今後の人生の財産になると思っています。

◎ FUNNでの担当は

広報を中心に、メルマガ作成、SNS投稿、国際協力ニュース作成を担当しています。今年度からは、インターン生受け入れ業務やスタディーツアーなどにも携わる予定です。



【インターン】
佐々木 萌依 さん
福岡女子大学

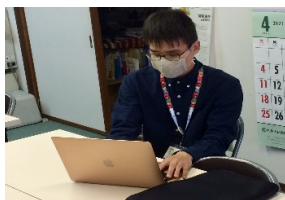
◎ FUNNでの思い出は(2021年2月～3月)

加盟団体さんへのインタビューでは、活動に対する信念や熱量を感じ、支援相手は違えどどの団体も相手に寄り添い、支援をしているというよりも共に生きているのだと感じました。また、国際協力ニュースの記事作成や、SNSへの投稿原稿作成では国際問題について知るとともに、人を惹きつける文章の書き方を学ぶことができました。

NGO相談レポート



2021年度NGO福岡ネットワークは、外務省NGO相談員を受託しております。外務省NGO相談員とは、国際協力分野で経験と実績をもつ日本のNGO団体が外務省の委嘱により「NGO相談員」となり、NGOの国際協力活動・NGOの設立・組織の管理・運営など、市民やNGO関係者からの質問・照会にお答えする制度です。NGO福岡ネットワークは外務省から委託され、この事業を2000年から継続して取り組んできた実績があります。今後も皆様からの数多くの相談を受け付けています。



NGO相談の様子

4月上旬に「海外の文化やODA活動を発信するNGO団体の支援がしたい」という相談をお受けしました。相談者の活動経験や今後やってみたいことをヒアリングさせていただき、活動団体の設立や類似した活動をしているFUNNの加盟団体の紹介、個人でできる支援活動の提案等を行いました。これからNGO活動を始めたいとのことで今後も継続的な相談を行います。FUNNでは感染対策を徹底しながら対面での相談も可能です。お気軽にお問い合わせください。

FUKU-NETパネル展

2月5日～11日に開催された福岡国際関係団体連絡会（FUKU-NET）が実施する加入団体活動紹介パネル展にて、NGO・国際協力についてのパネルを設置しました。新型コロナウイルス感染対策を実施した上で展示パネルの説明および訪問した一般の方から国際協力に関する相談を受け付けるブース運営を行いました。一般の方にNGO・国際協力への興味関心を持つきっかけを作り、福岡市内で活躍している国際支援の団体の活動の周知を行うことができました。



編集後記

今回の国際協力ニュースから、以前とは大きくフォーマットを変更しました。皆様から見て読みやすいものになったでしょうか？このコーナーはもっとこうした方がよいなど、皆様の率直なご意見・ご感想をいただくと今後の励みになりますので、何卒よろしく願います。（小原）

高橋良輔理事追悼

- FUNNの理事として、NGO・外務省定期協議会 ODA政策協議会のコーディネーターとしてご活躍された高橋良輔理事が他界されました。佐賀大学から青山大学に移り福岡と東京を繋ぐ架け橋として活動を担っていただきました。訃報を受けFUNNとして大変大切な方を失くし大きなショックを受けました。東京や他県からも多くの惜しむ声が届きました。どこまでも深い優しさを持った高橋さんは大きな存在でした。今までのご活躍に感謝するとともに謹んでご冥福をお祈りいたします。

地球市民の会

「ダンボジ特別支援基金」

- 地球市民の会が運営するミャンマー・シャン州の農業畜産研修センター・通称「タンボジセンター」で暮らす子どもたちの生活を支援するための基金です。新型コロナウイルス感染拡大と、国軍による緊急事態宣言という二重苦により、子どもたちの教育の機会が脅かされています。皆様のご協力をよろしくお願い致します。



NGO福岡ネットワーク **FUNN**

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前3-6-1小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぶ」内

TEL/FAX : 092-405-9870 Email: funn@ngofukuoka.net URL: https://ngofukuoka.net/

◆◇NGO相談を受け付けています(外務省委嘱)◆◇

* 営業時間：火～土 13:00～18:00 * 日・月・祝・・・休み

※専用駐車場がありませんので、自動車での来所はご遠慮ください。

